

定部金貳錢 廣五號十二 刊休日曜大祭福島縣石城郡平町町廿六番地
 一月限二限 告字語一行 刊日祝日ノ登 印刷所一〇活版所
 一月限二限 告字語一行 刊日祝日ノ登 印刷所一〇活版所

常新新聞

發行編輯人 川崎文治 福島縣石城郡平町町廿五番地 發行所 常警每日新聞社

刊夕日一十二月二

農村振興の實際方策を論ず(二)

不審大岳人

物質上より見たる農村生活は前述の如くであるが更に學力上より見たる農村の生活は實に牛馬と大差ない悲惨なものである、代議士山本象太郎氏の調査する處に依れば日本に於ては現在農民千人に付牛馬二十頭の割合にして殆ど牛馬の代用を爲しつゝあるのである之を濠洲の千人に付牛馬二千二百頭、印度の同じく五百頭に比すれば如何に我農民が

天然に恵まれる、事の僅少なるかに驚かざるを得ないのである斯の如く牛馬に等しき勞働を爲す者は従つて牛馬に等しき収入を得る以外に途はない、茲に於てか此心彼心農民の腦裡に刻まるゝものは人口の制限であるつまり収入を増すよりは人口減らせとの昔の諺の儘現に日本の農村は人口の制限に腐心しつゝあるのである有様である斯の如き現象が果して我産國將來の大計の上より見て喜ぶべき事であらうか、吾人は實に農村問題を顧みる毎に愕然として戰慄せざるを得ないのである。

大正十年の國勢調査の結果日本は六千萬の人口が一ヶ年七十萬増加すると云ふ從來の統計が單に過去の夢に過ぎない事を證據立てた、大正八年に於ては現に人口の増加率が四十萬に減少して居るではないか、經濟的の壓迫が遂に農村をして産兒制限を行はしむるに至つたと云ふ事は取りも直さず我國力の退嬰である人口の家庭的減少、それは遂に消極的人生、消極的國家社會を形成するの前徴である彼の佛蘭西の對外發展が止まり國勢微々として振はざるは即ち此の大勢に壓されたる事に外ならぬのである。

カティラン

ハタケのこり方

ハタケは皮膚を乾燥させないやうに、いつも皮膚にしみり氣を保たせるやうにしなればなりません。洗顏の時にはアルカリ性の強くない石鹼でざつと洗ひ、すぐクリームをつけておきます。

常警文藝

炬燵 飯村開舟
 燃える焚火より
 歩む運動の熱よりも
 人の心をそしる
 炬燵は
 のんきそうに
 布團を冠り
 逆上の温度を
 無暗と嵩じ
 一時的な熱火は

瞬く間に
 冷火と化し
 人身を寒からしむ
 焚火よ、人の手を
 籍りず、依頼心を
 起さず、モット
 眞赤な火をおこして
 實愛な温さを
 合めて呉れ

外科……泌尿科
 皮膚病 梅毒科
 入院 隨意
阿部醫院
 平町字新川町
 電話五六七番

會報

一月廿六日附 雅號昇傳者

大井川 愛水
 鈴木 草水
 星野 洋水
 小松 翠水
 阪本 磐城
 鈴木 楓城
 清野 畝城
 矢吹 麗波
 御代 香波
 齋藤 香波
 渡邊 香波
 小野 香波
 草野 香波
 坂本 香波
 鈴木 香波
 加藤 香波
 角張 香波
 大内 香波
 佐藤 香波
 中根 香波
 錦水流琵琶教授
磐水會本部
 (田町中島寫眞館裏)

有給外務員募集

業務簡易月給五拾圓外手當歩合にて
 月收百圓以上
 人員五六名廿歳より四拾歳位
 御希望の方は履歷書持參の上大至急御來談あられんことを乞ふ

平町田町六八
丸登株式店
 電話三二二二番

一冊の代金で御希望通りな五冊の雑誌が自由に讀める

平町長橋町三五
川崎回文庫
 (申込次第規則書進呈)

◆毛糸

經濟な御手編物は
 新時代の要求なり
 品質優等廉賣で誇るは
 弊店毛糸部の特徴
 今年の流行色を集めた
 弊店へ是非御用命を

平町三丁目(電話三八番)
三井吳服店
毛糸部

株式買中値

左記の値段は今日の標準値に付御用の節は御問合願候

銘柄	拂込	時價
磐城銀行	五〇〇	五七〇
平銀行	五〇〇	七〇〇
磐城銀行	二二五	一〇五
磐城實銀	三〇〇	二八五
田村實銀	一一五	一二五
四倉銀行	一七五	一七〇
農工銀行	二〇〇	二六〇
同新	一五〇	二〇〇
百七銀行	五〇〇	五四〇
同新	一一五	一五五
七七銀行	一一五	九五
郡山電氣	五〇〇	三八七
同新	二五〇	一八〇
只見川電	一一五	六五
植田水電	一一五	一五三
好問水電	一一五	一三五
磐城建物	二二五	一三五
磐城製菓	二〇〇	六〇
平信託	五〇〇	三五〇
磐城勸業	一一五	一三五
植田物産	三〇〇	二八〇
平製氷	二五〇	二七〇
好問軌道	五〇〇	三五〇
入山新	三二五	一七〇
小田炭礦	二五〇	一〇〇
磐城炭礦	五〇〇	四三〇
同新	二二五	一九〇
磐城セメント	五〇〇	七五〇
同新	一七五	三〇〇
平運送	一一五	八〇

東新株 先限 實物
 平町田町 電話三二二番
丸登株式店
 川添房二郎

平郵便局の一隅に

ジャワの無電が感じた

それは一青年の手に依つて
造られた簡単な装置

密柑箱や廢物で

平郵便局の廳内電話修繕室の一隅に無線電信の装置がある、然もそれは無電の研究に懸命な努力を捧げて居る一青年の手に依つて造られた設備であつて

清浦内閣の組織

清浦内閣の組織された時には逸早く其所に感じられた。青年の名は林誠一君、仙臺通信局から平駐在を命ぜられて居る通信工手である。林君は昨年六月から平局に勤る事となつたのだが無電に對して非常に興味を以つて居る爲め職務の餘暇に密柑箱や電話の壞れた廢物を利用して器械の取付に従事し苦心の末に漸く完成する事が出来た。一番最初に他の電波が感じたのは十二月十日であつて夫れが支那の北京から發せられたものである事が解つた、其後南洋のジャワとオランダ本國との間で通信して居るのが明瞭に

一萬哩

米國と日本が
天氣の挨拶を

僅か一分間で

聲城無線電信局と一萬四千里を距てた米國ミソリー大學と僅一分四十五秒で無線電信の通信を交換する事が出来たヲオコーボレーンシヨ會社支配人サーノフ氏は十七日ミソリー大學の講堂から聲城無線電信局に日本の天氣を聞き合した處一分四十五秒で『雪降りて非常に寒い先日は紀念品と金子五百弗を頂いて有難ふ』と

爆薬で粉微塵に

旅人宿で自殺

石城郡高久村矢吹彦太郎君は十九日午後六時五十分頃群馬縣利根郡川田村旅人宿

焦熱地獄に葬らる

最社側が極力盡した

救助方法も今は無し

赴き投身せんとせる際警官に救はる

離縁されて口惜しいと

亭主の面前でカミソリ自殺

石城郡錦村常磐線復線工事大丸組配下職新瀉縣生れ宮澤仁三郎(三三)の内縁の妻

妻ある色魔

由井ケ濱に投身せんと

命の親は

平町石炭商青木喜一郎の妹當時府下瀧谷原清次方に同居青木かつ(三)は昨年大震災の際本所石原町實兄喜一郎方に居住中被服廠に逃げ込み石炭仲賣商金子伊四郎(三)に救はれ縁となつて同居してゐたが伊四郎に妻子ある事を知り十八日無断家出し鎌倉由井ケ濱海岸に

眞面目な問題

子宮粘膜炎の變化

此の人工免液法が果して人工避妊法として醫學的價値を有し得るか

どうかは可成りの疑問であるが、理論上では頗る面白い。又斯くの如くにして獲得した精蟲免疫がどれ位長く持續するか尙問題である人體に精液を注射するやうなことは見ることは出来なすが普通の交接の際の精液射入にも類似的作用がないであらふかと云ふことが多

河に溺る

貧乏が露顯

石城郡植田町字仁井田下駄齒入職新瀉縣生れ吉川龜治(七七)は拾五日午前拾時頃山田川に身を投じて自殺したが原因は昨年拾月頃郷里を訪ねて親戚を廻り今では蓄財ある爲め何一つ不自由はないと大風呂敷を展げて来たがため同人の甥に當る吉川藤太郎が其言を信じて舊曆正月を幸ひ尋ねて來るとの事に今更ら大言を吐いた事を後悔自殺の意を決したのである

眞面目な問題

子宮粘膜炎の變化

此の人工免液法が果して人工避妊法として醫學的價値を有し得るか

どうかは可成りの疑問であるが、理論上では頗る面白い。又斯くの如くにして獲得した精蟲免疫がどれ位長く持續するか尙問題である人體に精液を注射するやうなことは見ることは出来なすが普通の交接の際の精液射入にも類似的作用がないであらふかと云ふことが多

珍聞奇聞

自働車で誘拐 住所不定前科三犯赤坂榮吉(三三)は南品川大井軒女給伊藤よの(三〇)を自働車にて誘拐した

温泉客が發狂 那須温泉の浴客淺草區花川戸町望月とら(三)を栃木署がチブス保衛者と誤り抑留し發狂

小學生の芝居 東京府下瀧の川小學校では活動寫眞館に父兄を招待し小學校兒童のお芝居を観覽せしめた

前度で常盤津 實業同志會武藤會長が選舉運動の秘策とし政談演説の前座に端唄や常盤津ハテア芝居迄

返事があつたとして米國無電界で大評判である

齋藤どう方二階六疊の室で所持のダイナマイトを爆發させて全身粉微塵となつて自殺した、同人は前橋方面から來り同家に止宿したもので數圓の飲食を爲し無一文の所からルーブル紙幣を支拂を爲さんとし家人に看破され此仕末に及んだのである

山形市生れ阿部ミツ(三三)は離縁されたのが口惜しいと去る拾七日午後四時頃亭主の面前にてカミソリを以つて自分の頸部を切斷し自殺を圖つたため植田分署から官出張したが傷は急所を外れたため生命は取止む偽大盡が

石城郡植田町字仁井田下駄齒入職新瀉縣生れ吉川龜治(七七)は拾五日午前拾時頃山田川に身を投じて自殺したが原因は昨年拾月頃郷里を訪ねて親戚を廻り今では蓄財ある爲め何一つ不自由はないと大風呂敷を展げて来たがため同人の甥に當る吉川藤太郎が其言を信じて舊曆正月を幸ひ尋ねて來るとの事に今更ら大言を吐いた事を後悔自殺の意を決したのである

石城郡錦村常磐線復線工事大丸組配下職新瀉縣生れ宮澤仁三郎(三三)の内縁の妻

石城郡錦村常磐線復線工事大丸組配下職新瀉縣生れ宮澤仁三郎(三三)の内縁の妻

石城郡錦村常磐線復線工事大丸組配下職新瀉縣生れ宮澤仁三郎(三三)の内縁の妻

優勝旗

鎌田支部に
關の上に於て
大正弓友大會

既報大正弓友會の優勝旗爭奪戦は、十九日午前九時から平町關之上同會矢場にて催され郡内の弓手八十九名參集勝旗試合は各支部選手三名宛火花を散らして決戦の結果鎌田支部の手に歸し喝采裡に支部長高木源一氏から鎌田選手代表鈴木明氏に授與したが其他の優勝者は左の如くである

(金の)猪狩厚(尺二號射)一等佐藤源之助、二等松崎義明、三等松島胤治、四等相田三治、五等小野清一、以下卅等迄

學事統計研究

石城郡にては來月拾一日午前九時から學事統計に關する研究会を郡議事堂にて開會し縣から小林主事補出張する筈

農事講習總會

石城郡農事講習同窓會にては來る二拾五日午前九時半から本縣農事試験石城分場にて總會を開く由

好問電氣供給

好問電氣供給好問水電株式會社に於ける電熱供給戸數は四千四百九十五戸で取付電燈個數は七千八百六十二燈休燈千九百九十九燈であるが配給戸數の町村別

眞面目な問題

子宮粘膜炎の變化

此の人工免液法が果して人工避妊法として醫學的價値を有し得るか

どうかは可成りの疑問であるが、理論上では頗る面白い。又斯くの如くにして獲得した精蟲免疫がどれ位長く持續するか尙問題である人體に精液を注射するやうなことは見ることは出来なすが普通の交接の際の精液射入にも類似的作用がないであらふかと云ふことが多

平町人事

出生 大島健三氏六女

婚姻 新川町 緑川イッキ(三) 宮城縣遠田郡大越安吉氏

死亡 田町 鈴木正雄(一〇) 研町 淺井光男(二) 一丁目 富田哲郎(二) 白銀町 佐藤ヨシエ(四)

通信部に榮轉することとなり不日赴任

渡邊ミイ子氏(性源寺住職母堂)病氣中の處去る五日逝去し二拾二日午後二時葬儀執行の由

大塚重藏氏(植田警察分署長)腸チブスのため臥床中の處遂に二拾一日午前五時半逝去し二拾五日告別式を執行する亭年卅六歳

眞面目な問題

子宮粘膜炎の變化

此の人工免液法が果して人工避妊法として醫學的價値を有し得るか

どうかは可成りの疑問であるが、理論上では頗る面白い。又斯くの如くにして獲得した精蟲免疫がどれ位長く持續するか尙問題である人體に精液を注射するやうなことは見ることは出来なすが普通の交接の際の精液射入にも類似的作用がないであらふかと云ふことが多